

Title	哲学第138集編集後記
Sub Title	
Author	後藤, 一樹(Goto, Kazuki) 中村, 香住(Nakamura, Kasumi) 土屋, 大輔(Tsuchiya, Daisuke) 坪井, 聡志(Tsuboi, Satoshi) 高山, 真(Takayama, Makoto) 澤田, 唯人(Sawada, Tadato) 岡原, 正幸(Okahara, Masayuki) Keio ABR
Publisher	三田哲學會
Publication year	2017
Jtitle	哲學 No.138 (2017. 3) ,p.283- 283
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 : アートベース社会学へ
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000138-0283

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

《アートベース社会学》という表記は知る限り、私たち Keio ABR が初めて用いるものである。アートベース・リサーチという、ポストモダニズム、ポストコロニアリズム、ポスト構造主義あるいはポストアカデミズムといったある種の運動の中に登場した、広義のアートを通じた研究実践のあり方のうち、社会学プロパーに収斂させたものをこう名付けた。

ABR はアートに基づいた「調査」であると同時に、アートを用いて社会を考察する「議論」の実践である。ABR はこれまでの社会学的研究に矛盾しないばかりか、社会学の方法を最大限に生かして、人文社会科学全体のあり方を問うていく射程を含んでいる。そうした意味で、ABR に関する「論考」が今号において集大成したことは、現代の人文社会科学にとって、社会学にとって、記念碑的な試みであり、この特集に参加できたことを心より嬉しく思います。（後藤一樹）

フェミニズムはその誕生の瞬間から ABR だった。女たちは男社会で生き抜いてきた自分たちの経験を、強い情動をもたってアカデミズムにぶつけ、学問の磁場を変革してきた。今度は、私たちみんながそれをやる番だ。（中村香住）

ABR 作品の制作過程を紹介させていただきました。『レブリカ交響曲』の鑑賞希望がございましたらご連絡ください。

HVEP の活動は survey-npo.jp/hiroshima にて紹介されております。あわせてご覧いただければ幸いです。（土屋大輔）

残念ながらアートミックスの公募には落選してしまいましたが、市原での私たちの取り組みは続いていきます。人間とアートの関りを真摯に見つめ、創作していく姿勢が求められていることには変わりはありません。（坪井聡志）

ライフストーリーとオートエスノグラフィというテーマが、どのようにアートベースの社会学に関連するのかを読者のみなさまに考えてもらえると幸いです。（高山真）

〈他者〉の生に触れるとき、「私」の生に与えられるあの力は何なのだろう。ABR はこの謎に答える手がかりを与えてくれるように思える（澤田唯人）

パンク社会学を僕が提唱したのが1998年（『ホモ・アフェクトス』）。20年経っても魂は一緒、ファック・オフ、ソシオロジー!!!（岡原正幸）

三田の社会学、という場について最後に一言。三田の社会学の歴史、それは自由の歴史だ。この自由の歴史をそれぞれの時代にそれぞれの仕方でも築いてこれた先輩方に僕らは感謝する。

Keio ABR